

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
(事務局 圓藤吟史)
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学医学部環境衛生学教室内
FAX 06-6646-3160
発行責任者(地方会長) 堀口俊一

第48回近畿地方会総会を迎えて

(平成12年度総会会長挨拶より)

地方会長 堀口俊一



第48回近畿地方会総会を迎えるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年度は日本産業衛生学会創立70周年にあたり、「日本の産業保健—あゆみと展望—」と題する記念誌が出版されました。何故、70周年を記念したかということですが、20世紀を締めくくり、21世紀を展望するに相応しい年であることとともに、日本では70歳、すなわち古稀を祝うという意味がこめられているのではないかと思います。今日ご出席の方のなかには70歳の方もおられるでしょうが、私も70歳を超えております。人間個体にとって70歳は平均余命も10年余りで、若いとはいえません。しかし、本学会のような社会の組織体は新進気鋭の若い人たちが、入れ替わり立ち代りして、これらの人たちの力により、ますます発展してきております。そのことは、今回出版されました記念誌をお読みいただければご理解いただけるものと考えます。

一方、私ども近畿地方会の歴史も昭和11年、1936年の「京阪地方会」にさかのぼりますと、60年を超えております。ただし、現在では戦後昭和28年、1953年の再発足を起点として数えていますので、今回48回にいたり、50周年も間近になりました。この記念事業はいま準備段階にあります。会員の皆様方のアイデアをお待ちしておりますので、よろしく願い申し上げます。

さて、本日の特別講演の基調テーマは「感染性疾患の産業保健対策について」であります。伝染病などすでに撲滅されて、過去のことになったと思っていましたことはいささか私の認識不足でありました。エイズやO157など各種の新興感染症、さらにはマラリアや往時我が国の死因の一位でありました結核などがぶり返して再興感染症として取扱われるなど、感染症が再び産業保健の分野で重要な課題となっておりまゝりました。本日は厚生省神戸検疫所所長内田先生、結核予防会会長青木先生、三菱重工業神戸造船所産業医の郷司先生、以上ご三人の先生から、兵庫医大公衆衛生学教室の小泉教授の司会により、それぞれの主題について有益なご講演をお聞きすることを楽しみにしております。その盛会をお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。



第48回近畿地方会総会 議事録まとめ

日時 平成12年5月26日(金) 12:50~13:50

場所 大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

1. 堀口俊一近畿地方会会長挨拶
2. 藤木幸雄日本産業衛生学会理事長挨拶
3. 第40回近畿産業衛生学会 宮下和久学会会長挨拶
(和歌山県立医科大学教授)

開催日 平成12年11月18日(土)

場 所 和歌山県立医科大学

4. 物故会員の報告
 - 平成11年4月 藤木元尚先生
 - 平成11年5月 宮城 浩先生 宮城医院
 - 平成11年6月 吉川正吾先生 阪急電鉄大阪診療所
 - 平成11年9月 猪子光俊先生
 - 平成11年11月 泉谷 裕先生 泉谷診療所
 - 平成11年11月 今村和昌先生 村本建設大阪本社
5. 岡田治子先生(大阪産業保健推進センター)を議長に選出
6. 総会の成立を確認
 - 出席者 463名(出席者55名、委任状408名)
 - 会員数1282名の内、出席者が会員の1/5以上となり本総会は成立した。
7. 議事録署名人の選出
 - 岡田邦夫先生(大阪ガス健康開発センター)
 - 植木寿満枝先生(日本予防医学協会関西支部)
8. 議題

- (1) 平成11年度事業報告
 - 圓藤理事より説明があり、承認された。
- (2) 平成11年度決算報告(監査報告)
 - 圓藤理事より説明後、原監事より監査承認した旨の報告があり、承認された。
- (3) 平成12年度事業計画(案)
 - 圓藤理事より説明があり、各議案が承認された。
- 1) 第48回近畿地方会総会
 - 平成12年5月26日(金) 大阪市立大学医学部学舎
- 2) 第40回近畿産業衛生学会
 - 平成12年11月18日(土) 和歌山県立医科大学
- 3) 評議員会: 2回開催予定
- 4) 幹事会: 4回開催予定
- 5) 近畿地方会ニュース: 4回発行予定
- 6) 産業医・産業看護部会の実施について
 - ①第5回近畿産業医・産業看護協議会
 - 平成12年7月6日(木) 大阪府医師会館
 - ②第5回近畿産業医部会研修会
 - 平成13年2月3日(土) 大阪市立大学
 - ③近畿産業看護部会平成12年度研究会
 - 平成13年2月(詳細は検討中)

④近畿産業看護部会の実態調査

⑤産業看護職継続教育システムに則した「実力アップコース」近畿地方会実施について(検討中)

7) 産業衛生講座実施について

①第13回 平成12年4月1日(土)

②第14回 平成12年5月20日(土)

③特別研修会 平成12年9月9日(土)

④実地研修 7回実施予定

8) 研究会活動

①第5回労働衛生法制度研究会

平成12年6月10日(土) 大阪府立公衆衛生研究所

②第41回産業精神衛生研究会

平成13年3月3日(土) 大阪府医師会館

(4) 平成12年度予算(案)

圓藤理事より説明があり、承認された。

(5) 第41回近畿産業衛生学会開催について

平成13年秋に京都で開催することが承認された。

(6) 第75回日本産業衛生学会の準備状況について

住野神戸大学教授(企画運営委員長)より、平成14年4月10・11・12日に神戸国際会議場で開催予定で、今秋企画運営委員会を立ち上げる予定との説明があった。

(7) 産業衛生講座製本に関する件

徳永理事より、第1回より14回までの講師29名のレジメを集大成して正規の出版物としてまとめる方向で検討中であるとの説明があった。

(8) 地方会50周年記念事業について

平田幹事より、平成14年に50周年記念事業を開催予定で、詳細は現在検討中であるとの説明があった。

(9) 日本産業衛生学会定款改正案および地方会会則改正案について

圓藤理事より資料にそって説明され、来年総会で決議したいので、1年かけて検討したい旨の希望が述べられた。また、藤木理事長、徳永理事からも近畿地方会員の協力が要請された。

(10) その他

1) 大原幹事(松下産業衛生科学センター)から転勤のため幹事辞任の申し出についての幹事会報告承認された。

2) 第75回日本産業衛生学会企画運営委員長の住野神戸大学教授を新幹事としたい旨の幹事会報告が承認された。

3) 堀口会長より、ICOHの2008年の国際会議開催地に日本を含めて、東アジアで開けるよう日本のメンバーは検討しているとの報告があった。

総会の特別講演

座長のまとめ

兵庫医科大学公衆衛生学 小泉直子

メインテーマ「感染性疾患の産業保健対策について」

1. 「世界における感染症の動向」 厚生省神戸検疫所 所長 内田幸憲先生
2. 「結核の蔓延状況と予防対策」 結核予防会 会長 青木正和先生
3. 「職場における感染症対策」 三菱重工(株)神戸造船所 産業医 郷司純子先生

第48回日本産業衛生学会近畿地方会総会は2000年という節目の年に、大阪市立大学医学部大講義室で行なわれた。特別講演会では新しく感染症予防法の制定施行に伴い、『感染性疾患の産業保健対策について』と題して、3名の講演者にそれぞれの立場から教科書からは知識の得られないような新鮮な内容についてご講演頂いた。大講義室にも関わらず立つ人も出るくらいの盛況で、講演者と聴衆とが一体となって熱心な質疑応答がなされた。

第一席の内田幸憲先生（厚生省神戸検疫所所長）は「世界における感染症の動向」というテーマで講演された。今までは発展途上国の感染症問題が重視されてきたが、近年はニューヨークでもニッパウイルスや西ナイル熱が流行していること、日本では全く見かけないような黄熱も中南米で流行しており、発症すればほとんど死亡する狂犬病は世界のいたるところでみられ、日本と同じ感覚で海外で安易に犬にさわらないこと、また、発展途上国では開発により新たな動物を介したウイルス疾患が流行し、多くの死者を出していることなど、派遣者の健康を守るための産業保健対策として示唆に富んだ内容の話がうかがうことができた。その際、現地の保健・医療情報を迅速かつ正確に収集することが第一であり、そのためのインターネット・リソースをレジメに掲載して頂いたのも、産業医・保健婦等にとっては大いに役立つことと思う。但し、感染症学会の資料であり、その取り扱いについては十分注意してほしいとのことであった。また、予防接種については相手国の要求するワクチンの種類やその種類による接種禁忌期間の違いなど、産業医として知って置くべき現実問題に注意する必要があるとのことであった。



内田幸憲先生

第二席の青木正和先生（結核予防会会長）は我が国で再び流行の兆しを見せている結核について、長年の臨床と研究に従事されてきた経験と成果について、極めて具体的に有効な内容を披露して下さいました。特に大阪は結核罹患率が全国ワーストワンであり、次いで神戸ということもあって、会場の出席者にとっては非常にインパクトが強く、講演後は数々の質問が出された。結核は昭和25年まで死因の第1位を占めていたが、その後一貫して減少を続けてきたが、1980年頃から特に20歳代の結核罹患率の減少が鈍化し、この鈍化による結核罹患患者数の余剰増加は計43万人にも達するという。その経済損失は膨大なものであり、原因の一つとしてエネルギー効果を高めるために建物の気密性（アルミサッシの普及）が推進されたことが問題であろうと述べられ、この時期と結核罹患率減少が鈍化し始めた時期とが相関することを述べられたことは非常に興味深かった。ニューヨークでも移民の増加と結核対策費の削減により結核新登録患者数が一挙に増加したが、そのときの対策は見事なもので、DOTS（Directly Observed Treatment, short course：短期化学療法による直接監視下治療）という徹底した患者管理と治療により流行が終焉したという。現在日本でも日本式DOTSを行なわねばならないという方向で動いているとのことであった。以上結核については出席者からも熱心に質問が出され、特にBCG再接種の効果については青木先生ご自身も大いに疑問のあるところであるということであった。



青木正和先生

第三席の郷司純子先生（三菱重工(株)神戸造船所産業医）は産業医の立場から、実際に労働者の感染症対策における問題点とその対応について分かり易く講演して頂いた。海外での感染症問題では、旅行者と違って労働者の場合は派遣先のスポット情報や医療そのものが乏しい地域が多く、一旦問題が起こると感染症に対する知識の不足から、パニック状態になることもあるとのことであった。発展途上国では単に治療法がなく死亡率も高い感染症が流行しているだけでなく、戦時下にある国もあり、情報のみならず緊急輸送もままならない状況が発生することがある。その対策として産業医はあらゆる手段で情報を収集し、時には現地へ赴き労働者の健康状況と衛生環境を把握し、直ちに対策を取らねばならない状況も発生するとのことであった。また、国外だけでなく、国内の感染症としてインフルエンザの流行や食中毒の発生は、職場の業務の進行を減速させたり、時には全く機能しなくなり大きな経済損失を引き起こす。その他、結核、24時間入浴施設でのレジオネラ問題など集団発生の危険性の問題、出血事故の起こりうる職場でのB型肝炎、C型肝炎、エイズ等、産業医としては予防接種、教育、管理体制等について大きな責任を痛感するとのことであった。



郷司純子先生

以上今回の特別講演会では、感染症という課題が現在の職場の問題点として重視すべき状況にあることから、参加者にとっては大いに勉強になったことと思う。本講演会を最も実りあるものにして下さったのは、何よりも講師の方々の豊富な知識と実際的なご経験による講演内容であったことは出席者一同十分了解済みのことであり、お忙しい中快く講演を引き受けて下さった先生方に深く感謝致します。

総会の特別講演

『感染症領域のインターネット・リソース』

内田幸憲先生のご了解のもと、制作者：藤谷誠先生のご協力により、特別講演レジメよりサイトの一部を抜粋し以下に掲載致しましたので、末尾の「ご注意」を熟読の上ご利用下さい。(内田先生を通じて日本感染症学会から掲載の許可を戴いております。)

1. 感染症領域関連サイト (国内)

国公立機関・学協会によるリソース

- 国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ。薬剤耐性菌情報と薬剤耐性菌情報へのリンクが充実。感染研が発行している雑誌Japanese Journal of Infectious Diseases (JJID)へのリンク有り。 <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
- 厚生省のホームページ。医薬品等安全性関連情報やO157・食中毒関連情報は実務者向け。 <http://www.mhw.go.jp/>
- 厚生省・検疫所のホームページ。旅行医学関連リンクが提供されている。 <http://www.forth.go.jp/>
- 結核予防会結核研究所のホームページ。結核に関する最近の話題、知見。 <http://www.jata.or.jp/>
- IMA (インター医師会リンク; Inter Medical Associations Network)のホームページ。感染症のリンクでは全国医師会の感染症サーベイランス情報が得られる。 <http://www.osaka-med.ac.jp/~friend-2/toku/ima.html>
- 姫路獨協大学のマラリア情報ネットワーク。WHO 編集の "Internet Travel and Health" (日本語版「海外旅行と健康」)、WHO に報告された感染症流行情報 (日・英対訳版) が提供されている。 <http://malaria.himeji-du.ac.jp/#japanese>
- 佐賀医大・微生物学講座のホームページ。ユニークなリンク集が充実。 <http://www.ns.saga-med.ac.jp/~microbio/>
- 富山県厚生部医務課のホームページ。地域保健・医療関係リンク集では感染症関連リソースも充実。 http://www.pref.toyama.jp/sections/1204/1204.htm#医務課homepage_top
- 大学病院医療情報ネットワーク(UMIN)のホームページ。学術団体等 (学会) データベース・所属機関データベース・医療材料データベース等。 <http://www.umin.ac.jp/>
- 文部省学術情報センターのホームページ。研究者ディレクトリ、学会一覧、国内の学術情報データベースリストなど、多くの学術情報が提供されている。600を超える大学図書館等の総合目録データベースが検索可能。 <http://www.nacsis.ac.jp/nacsis.index.html>
- 医薬品情報ガイドで医薬関連情報URL検索が提供されている。 <http://dcbint2.nihs.go.jp/druginfo/>
- 国立医薬品食品衛生研究所 (National Institute of Health Sciences) のホームページ。JCRBセルバンクの細胞リストを提供。国公立の研究機関や、食品衛生関係の団体、法人へのリンクが充実。 <http://www.nihs.go.jp/index-j.html>
- Bio-Crawler。農林水産省農業生物資源研究所で開発された、バイオ関連の研究用Web ページの検索を専門に扱う検索エンジン。 <http://bio-crawler.dna.affrc.go.jp/>
- 日本DNA データバンクDDBJのホームページ。『DDBJ/EMBL/GenBank 国際塩基配列データベース』を構築している三大国際DNA データバンクのひとつ。 <http://www.ddbj.nig.ac.jp/Welcom-j.html>
- 江西医学院のホームページ。中国のサイトであるが、日本の大学医学部・医科大学へのリンクが日本語で提供されている。 <http://www.geocities.com/CollegePark/Classroom/6388/index.html>

2. 感染症領域関連サイト (海外)

国公立機関によるリソース

- WHO(World Health Organization)のホームページ。トップページにSearch機能が用意されている。WHO が発行したドキュメントを閲覧できる。 <http://www.who.int/>
- CDC(Centers for Disease Control and Prevention) のホームページ。トップページにSearch機能が用意されているので、必要な情報をキーワードで検索することができる。EID Journal(Emerging Infectious Disease Journal)やMMWR

(The Morbidity and Mortality Weekly Report) の内容が提供されている。 <http://www.cdc.gov/>

- NIH(National Institute of Health) のホームページ。Search NIHとしてSearch機能が用意されている。 <http://www.nih.gov/>
- HHS(U.S.Department of Health and Human Services)のホームページ。トップページにSearch機能が用意されている。 <http://www.hhs.gov/>
- FDA(Food and Drug Administration) のホームページ。トップページにSearch機能が用意されている。FDA Drug Approvals List も提供されている。 <http://www.fda.gov/>
- Pasteur Institute のホームページ。Biological databases では、結核菌等のゲノムに関する情報のほか、バスターール研究所の持つ菌株の情報なども検索できる。 <http://www.pasteur.fr/index-en.iphtml>
- PHLS(The Public Health Laboratory Service)のホームページ。各種のガイドラインや出版物の情報にアクセスできる。 <http://www.phls.co.uk/>
- Karolinska Instituteのホームページ。Bacterial Infections and Mycosesへリンク。微生物の種ごとにリソースがまとめられている。 <http://www.mic.ki.se/Diseases/c1.html>

学協会によるリソース

- ASM(The American Society for Microbiology)のホームページ。Journal of Clinical Microbiology等の感染症領域の雑誌や出版物を発行する同社が発行する各誌のContents とAbstractが提供されている。登録メンバーは、Full Text のダウンロードも可能。 <http://www.asmsusa.org/>
- APIC(The Association for Professionals in Infection Control and Epidemiology) のホームページ。APICが提供する教育プログラムのカタログ。 <http://www.apic.org/>
- FAS(Federation of American Scientists)のホームページ。Other Resources からリンクをたどると、感染症領域への豊富なリンク集を利用できる。 <http://www.fas.org/promed/index.html>
- FEMS(Federation of European Microbiological Societies) のホームページ。ライフサイエンス系の情報源や、各種雑誌などのリンクが充実。 <http://www.elsevier.nl/homepage/sah/fems/>
- IDSA(The Infectious Diseases Society of America)のホームページ。Search the Immunization News Databaseで、ホームページ内のImmunization News Databaseの検索が可能。 <http://www.idsociety.org/>
- CIDS(The Canadian Infectious Disease Society) のホームページ。カナダのリソースへのリンクなど。 <http://cids.medical.org/>

3. ご注意

ここにご紹介したリソースのご利用にあたっては、各サイトに定められた利用制限などに従ってください。また、発行者である第74回日本感染症学会総会学術講演会・会長澤江義郎、並びに制作者である藤谷誠は、ここにご紹介したリソースのご利用に付随して生じたいかなる損害に対しても責任を負いません。あくまでもご利用になる方の責任において、ご利用下さるようお願いいたします。

ここにご紹介するリンクは、いずれもハンドブック作成時には運営されていたことを確認しております。しかし、インターネットでは、URL が変更されたり、運営が停止されることもしばしば見られます。したがってご利用時には、残念ながら「見つかりません(not found)」などのメッセージが表示されてしまうこともあります。

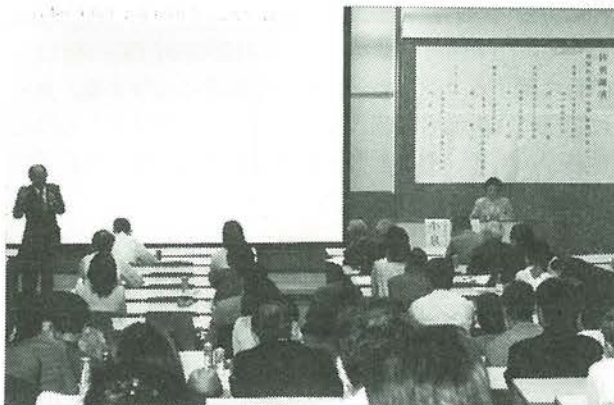
第48回近畿地方会特別講演会を聴講して

松下電子部品(株)本社健康管理室
佐野 敦

平成12年5月26日(金)大阪市立大学医学部学舎において「感染性疾患の産業保健対策について」をメインテーマとした特別講演会が開催された。昨年7月に厚生省が「結核緊急事態宣言」を発令し、本年4月に感染症新法が施行されたこともあり、産業保健に従事する者にとっては大変時宜を得た講演会であった。

まず厚生省神戸検疫所所長の内田先生が「世界における感染症の動向」という演題で新興感染症や再興感染症についてお話された。これらの感染症は診断がつくまでに時間がかかるのでまず症候群として報告し、その後診断を確定していく。人や物の交流がすさまじい勢いで進んでいる現在、これらの感染症がいつでも日本に入ってくる可能性があることを強調された。次に結核予防会の青木先生より「結核の蔓延状況と予防対策」という演題の講演があった。1980年頃より日本の結核罹患率の減少が鈍化してきており、最近では増加傾向にある。原因としては高齢患者の増加と若者の結核減少の鈍化が関係しているが、その背景には機密性の高い住宅環境、都市への人口集中などの社会問題、糖尿病など生活習慣病の増加、大都市や狭い所で働くなどの産業形態の変化など色々な要素が考えられる。今後の日本の結核対策として、発見した菌陽性者を確実に治療するために日本式DOTSを推奨された。続いて三菱重工業(株)神戸造船所の郷司純子先生が「現場における感染症対策」という演題でご自身の経験を海外と国内に分けて話された。従業員が海外の僻地に長期間滞在することが多く、色々な健康上の問題があるようである。

本日まで講演いただいた感染症の知識を明日からの産業保健活動に活かしていきたいと思う。最後に当日発表していただいた演者の先生方とタイムリーなテーマを選択し講演会をご準備いただいた事務局の皆様方に深謝いたします。



第73回日本産業衛生学会 印象記

松下電器産業(株)技術部門
西門真 健康管理室
横川 昭一

第73回日本産業衛生学会が平成12年4月24日～26日、特別研修会が4月23日開催された。会場は福岡県北九州市の小倉駅に近い北九州国際会議場、西日本総合展示場であった。懇親会の会場であったホテルを含め、きれいで、すばらしい学会開催設備で気持ちよく参加できた。

メインシンポジウムのテーマは「働くということ」で、労働を問い直し、21世紀の産業保健の目指すものは何かを考え直すいい機会になった。各会場にてシンポジウム、講演、各種発表がなされ、ポスター発表がある展示コーナーには「地域産業保健コーナー」が設置され、小規模事業所の産業保健活動を知る機会が得られた。

今回よりポスター発表において表彰制度ができた。記念すべき最初の最優秀作として近畿地方会員の三洋電機(株)大東保健センター益江毅先生発表「高コレステロール血症患者に対する教育プログラムの費用便益について」が選ばれた。表彰制度設定は今後の発表者の励みになると思われる。

研究会特別報告は重要な話題が選ばれており、今後の実践活動、研究活動での貴重な情報となった。

口演、ポスター発表などでも興味深い内容のものが数多くあった。情報機器の進歩を学会発表に上手に利用しているものが増えてきていると感じた。

懇親会も盛会に開催された。郷土色のあるイベントが盛り込まれ、参加者は楽しい雰囲気の中、会員相互で情報交換や交流を深めることができたと思う。

本学会運営関係者、学会役職者、各会員、関係者のご努力によりすばらしい学会になり、有意義に楽しく参加ができたことを感謝します。



報 告

第70回日本衛生学会を主催して

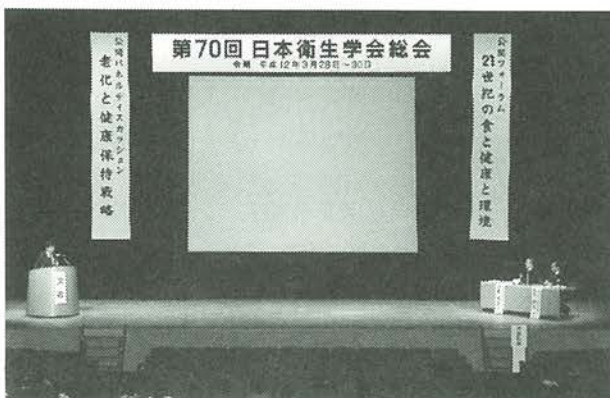
関西医大衛生学

徳 永 力 雄

去る12年3月28日から3日間、第70回日本衛生学会総会が大阪国際交流センターで開催され、私共がお世話をさせていただきました。全国の大学の衛生・公衆衛生・産業衛生の研究者や産業医、行政職、市民など約1200人が参加して盛会でした。大過なく終わることができましたのも、近畿地区の各大学の関係者、産衛近畿地方会、大阪産推進センター、日本予防医学協会関西支部をはじめ労働衛生機関のご支援の賜物と感謝しています。

一般口演のテーマは、化学物質・騒音・電磁波・温熱、内分泌攪乱物質などの生体影響や作用機序、生活習慣病、がん、健康づくり、小児・母性・学校・成人・老人の保健・福祉、栄養・食品衛生、感染症、国際保健、など多岐にわたりましたが、参加者は各会場を巡り歩きながら交流を深めていました。発表内容は、実践的な研究のほかに基礎的な研究が多いという衛生学会らしいものでした。

今総会の特徴は、フォーラム「21世紀の食と健康と環境」とパネルディスカッション「老化と健康保持戦略」を、産業医と市民に公開して参加していただいたことです。幸いに、産業医研修は延べ521人、行政・産業保健関係職や市民は84人が参加しました。公開フォーラムは、森本兼曩阪大教授、宮下和久和歌山医大教授の司会で、地球規模での食料問題、遺伝子組み替え作物、飲酒行動と遺伝子、日本食の長所など食に係る新しい話題が紹介されました。公開パネルディスカッションは、柳川洋埼玉県立大学副学長の司会で、老化のメカニズム、健康日本21と成人病予防(上島滋賀医大教授)、介護保険と保健事業について、有益な発表討論がありました。いずれも大変好評で、共に録画していますのでご希望の方はお申し出下さい。

日本産業衛生学会近畿地方会
労働衛生法制度研究会(第5回)

表記研究会を2000年6月10日(土)午後2時~5時30分、大阪府立公衆衛生研究所において開催し、三柴文典会員(近畿大学法学部講師)より「労働科学と法の関連性—日独労働安全衛生法の比較法的検討—」の演題で以下の報告をいただき意見を交換した。

1. はじめに、わが国で労働安全衛生法典が施行されてから既に四半世紀が経過したもとの、本報告の目的は、その間に様々な背景を伴って表出した近來型労働危険対策への法的対策のあり方を、第一に「広義の労働科学と法との関連性」、第二にそれとの関連で「労働者権・労働者参加」の視点から、日独の比較法的方法をもって検討することとされた。

2. 日本法に関する検討では、近來型労働危険が具体的な労災(もしくはその関連疾患等)となって現実化している一方で、わが国の労働安全衛生法体制は、明治維新以降ほぼ一貫して、「行政→事業者(及びそれを補佐する安全衛生専門家)→労働者」との指導順位体制を維持し、例えば法的事業場内保健制度も法的事業場外労災防止団体制度も労働者参加を排除している。それに並行して、司法上、労安法令の契約直律効は極めて制限的に解釈され、私法上の法理たる安全配慮義務に関する解釈をしても、労安法令の実施に関する労働者権が十分に導かれるに至っていないこと。そして本来的に労働者参加をその手段かつ目的とするはずの労働科学研究の法的吸収過程にも根強く行政のフィルターが存在し、複雑多様化する労働危険への対応は、恒常的に遅れざるを得ない構造を示された。

3. ドイツ法に関して、同法の採用するシステムを、第一に、最先端の労働科学的認識を法的に吸収するため、(1)法規の文言に直接それを組み入れる、(2)労使自治的構成をもって成る経営内外の法的(災害予防)機関に法的規範設定権限を付与し、その吸収を図る。第二に、法的吸収を経た、もしくは未だ経ざる労働科学的認識を各職場単位で運用するため、労働者に職場危険情報権、消極的な労務拒絶権、積極的な履行請求権を付与し、その要件に労働科学的認識を設定する。また、事業所医をはじめとする産業保健スタッフ(労働科学の専門家)の任免、職務に関するコントロール権を労働者に付与する。さらに第三に、労働者(個人及び集団)と労働科学との接近性確保のため、その学習・教育研修機会を使用者負担にて提供する等と紹介された。

4. イギリスのローベンス報告とも関連するドイツ型モデルは、近年ILOとの連携も深めつつあるISO規格によってわが国にも突きつけられているとして、安衛法制度上、労働科学と労働者をいかに扱うべきかを具体的に論じられた。

(文責:西山勝夫)

— 医師会だより —

和歌山県医師会における産業保健活動状況について

— 特に産業保健推進センター開設について —

和歌山県医師会産業保健担当理事 寺下 浩 彰

和歌山県医師会の産業保健へのとりくみは、昭和47年、産業保健担当理事を決めた頃より、本格的になりました。

昭和49年1月第1回和歌山県産業保健講習会を、和歌山労働基準局と共催、同年9月に、第1回郡市医師会産業保健担当理事連絡協議会を開催、翌50年4月には和歌山市医師会に産業医部会が設置されました。

昭和56年4月より、和歌山県産業保健活動推進協議会が設置され、関係団体相互の情報交換も盛んとなり、産業医活動が益々盛んとなりました。

平成元年10月からは日医の産業医研修を開始、多くの産業医の先生を養成することとなりました。

平成3年には、田辺市医師会にも産業医部会が設置され、全県的な産業医活動への関心の高まりを実感することとなりました。

そして、本年、平成12年度、ようやく和歌山県に産業保健推進センターが設置されることになり、杉浦 寶和歌山県医師会長に、センター長をお願いし、その設立準備が、着々と進められ、その開所式を迎えることになりました。

思えば、私の前任の、中村淳一前担当理事の時代からの、念願でもありました。

ようやく、その念願が叶ったいま、センターに求められている、大きな期待に、応えなければならないことに、身が引き締まる思いを抱いているのは、当センターに関係している、スタッフ一同に共通した、思いであろうと考えています。

和歌山県は、皆様ご存じのように、名だたる高齢化県であり、また、中小零細企業が多い土地柄でもあります。

したがって、和歌山県では、他の大都市の推進センターとは違って、その機能のうち、50名以上の従業員を擁する企業を対象とする産業医活動の推進、支援事業もさることながら、従業員50名未満の中小零細事業所を対象に、活躍をいただいている、地域産業保健センターに対する、支援事業が、より強く求められているのではないかと考えております。

本来、産業医活動を本当に必要としているのは、これら中小零細企業の従業員ではないかとも考えます。

労働者の高齢化、過労死等、産業保健の中で、近年特に問題になっている事柄も、これら、中小零細事業所に顕著にあらわれております。

そのような事業所では、定期健康診断を受けるにも、その費用は小規模事業所産業医共同選任事業等で援助されているとはいえ、その実施のための時間を、どのように確保するかが、問題となっているところも、少なくないのであります。

このような現実をふまえ、いかにして産業医活動を、労働者の立場から、利用しやすい環境に持っていくかを、検討、研究するのも、推進センターの大きな職務ではないかと考えております。

そのような訳で、今回、各地域産業保健センターとの連携が特に重要と考え、センター長に、県医師会長の就任をお願いしました。

現場に密着した、事業展開には、是非必要なことではないかと考えている次第であります。

その結果につきましては、種々の機会を通じて、全国に発信し、皆様のご意見を頂きたいと考えております。

又、当県に固有の状況かもしれませんが、折角、産業医の資格を得たのに、それを生かし、活躍をする機会が少ない、との意見を聞きます。

これは、当県には、嘱託産業医を必要とする事業所が少ないことが、大きな原因だと考えますが、地域産業保健センターに、更にご努力をお願いし、これらの先生方の、活躍する機会、場所を、開拓して頂きたいと考えております。

このような努力が、嘱託産業医を30名以上の事業所に、との方向を推進することにも繋がるものと考えております。

いずれにしても、与えられた予算を、有効に実行できるよう、県医師会として、最大限の協力、努力を惜しまないつもりであります。

皆様のご指導、ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。



「つぶやきコーナー」



産業医研修 カリキュラム作成の悩み

(医) 成義会榎屋医院
大阪府医師会
産業医部会副会長
榎屋 義雄

昭和35年より某鉛蓄電池工場の嘱託産業医をひきうけている。随分と長い間勤務したのだが、その間相当数の一般定期健診や特殊健診を経験し、環境測定等にも立ち会って来た。しかし残念ながら、もうこれで大丈夫だと言う自信は今もって全くもてない。むしろ持とうとはしないのが現実である。その原因はあまりにも技術革新に伴う現場の変化が大きいから、これで大丈夫だと言う一定の基準を持ってないからだと思う。しかしそれでも産業保健全般に亘る基礎的な知識と長い実地の経験が必要なのは言うまでもなく、しかも経験が相当大きなウェイトを占めていると考えている。

労働安全衛生法の改正により日医認定産業医制度が大きくクローズアップされ非常に若い先生方がこの資格取得のため講習会に参加されるようになり、時には主催者側から定員オーバーのため、お断りする場合も多々見受けられる。しかし残念なことには非常に熱心にお聞きになる方もいれば、余り熱意を感じられない方も見受けられるのが現状である。産業保健と言う一般の先生方にとっ



アイデンティティ

三菱電機システム変電・
交通システム事業所
健康増進センター
加藤 俊夫

「アイデンティティ」という言葉は個人や国などについて「己はそもそも何者か?」と言った意味で良く使われる。国の「アイデンティティ」については、歴史の新旧にかかわらずその国にとっては大変な問題のようである。例えば、米国については、「フォレスト ガンプ」、「アメリカン ビューティ」のような「アイデンティティ」にかかわった映画がアカデミー賞を独占していることからその意味の大きさが伺える。米国のそれは日本のように歴史は古いが「小さい文化圏」の「アイデンティティの悩み」とはかなり違ったものであることは興味深い。個人の「アイデンティティ」についてもこれにこだわれば苦しくなるばかりで、よく「裏表のあるのは良くない」

て、あまり馴染みのない分野でもあり興味を感じないためだろうと思われる。これは講習カリキュラム作成担当者に責任の一端もあるが、基礎研修の場合は予め決められたカリキュラムがあり且つ基礎的知識の習得と言う目的があるため万やむを得ない一面もある。しかし資格取得後の更新研修や専門研修においては、やはり時代に即した応用のきく知識習得の研修が必要となってくるのは当然である。しかし現状は医師会、大学、研究機関からの指定講習会の申請の内容を見る限り、余りにも画一的で同じ内容のものが多く只単位取得のための講習会の様に思えてならない。各機関の担当者は互いに連絡を取り合いながら出来るだけ内容が重複しないで且つ広範囲に亘る知識の習得に役立つカリキュラムの作成をするべきだと考えている。

まして実務面で全く経験のない先生方を対象とする基礎研修特に実地研修は研修の場をさがすことだけでもたいへんな困難が伴うものである。

最近の新しい試みとして医師会と学会が協力してケースカンファレンス形式の集まりを持ち産業医が互いに問題点をぶつけ合いながら問題解決の糸口を探すと言う計画が実施されることとなった。しかしこれも既に産業医として活躍されている先生方が対象で、これから産業医になろうとする先生方には道が閉ざされている。

産業医のレベルアップには非常に有効な実践的且つ有用な試みであるので、今後学会や研究機関の方々の協力を得て基礎研修の実地研修にも取り入れて行きたいものだと考えている。

と教えられるがこれはおそらく間違いか不可能なことで、むしろ「100人の人と付き合いのある人は100人の自分が存在する」と考えるのが自然と思われる。

私がここで触れたいのは、こうした意味の「アイデンティティ」ではなくて、いわば「生理的アイデンティティ」といったものである。つまり、人間が機械としての程度の「完璧さ」を持つと考えているかということである。健康診断の結果をデータを提示しながら説明していると、各自のデータは常にほぼ一定の値に統一されてほとんど変化がないものと考えている人が意外に多いのに驚かされる。例えば、心電図の一つの期外収縮出現、肝機能など数値データのわずかの年差変動などを真剣に心配する人が結構多い。このような方にはそのデータにはどのくらいのバラツキがあるかを良く説明するように心がけているが、つい「あなたはひょっとすると冷血動物では?」などと皮肉を言いそうになる。しかし、最近では人間は自分が「確固とした生理的存在」と考えていなければ生きていけないものかなあとも思ってクライアントに健診結果を説明しながら反応を見ている次第である。

「つぶやきコーナー」



スイス留学記

滋賀医大・予防医学
北原 照代

1998年9月1日から1年間、スイス連邦工科大学 (ETH)・衛生/労働生理研究所 (IHA)に留学する機会を得ました。留学の目的は、4カ国・10研究所が参加するヨーロッパの研究プロジェクトPROCID (Prevention of muscle disorders in Operation of Computer Input Devices) に、IHAの一員として参加することでした。詳細は紙面の都合上割愛させていただきますが、同プロジェクトは、VDT作業のような低レベルの筋収縮と精神的負荷を伴う作業における上肢筋のモーター・ユニット活性を調べ、筋障害の発症メカニズムの解明にアプローチし、予防に役立てることを目的としています。研究内容もさることながら、労働衛生研究者、生理学者、心理学者、工学者・エンジニアといった幅広い職種が集まり、それぞれが自分の役割を認識し、議論に参加し、各自が能力を発揮していくという建設的なプロジェクトに参加でき

たことは、私にとって大いなる刺激となりました。

PROCID以外の仕事としては、スイスの手話通訳者を対象に健康調査を実施できました。また、現地で知り合いになった方々のご協力により、頸肩腕障害・腰痛患者のリハビリプログラム、老人ホーム、障害者施設、病院手術室、ごみ焼却場、小学校の授業風景なども見学できました。

日常生活は、もちろん完全週休二日。スイスで認識したのは、「心のゆとり」がいかに大切かという事、また、24時間開いているコンビニエンス・ストアに代表されるような「日本の生活の異常さ」でした。帰国して、スイスでの生活ベースはもはや完全に崩れ去り、行くまいと思っていた「コンビニ」にも足を踏み入れてしまいましたが、以前より気分転換の仕方が少しくまくなったような気がします。「スイスどうだった？」の問いに対する「あれは夢やったのかなあ…楽しかったなあ」という答えに偽りはなく、ただ、感傷にひたるだけではあまりにももったいない一年間で、自分の中で消化して熟成させていくのには、少し時間がかかりそうです。

(PROCIDホームページ

<http://www.lindholmen.se/procid>)



和歌山産業看護 研究会の紹介

日本通運(株)和歌山支店
澤野 夏子

平成7年2月10日に、私も発起人の一人として、和歌山産業看護研究会が発足しました。東京で開かれた、日本産業衛生学会の看護講座の受講中に、和歌山から来ている産業看護職の方と知り合いました。

話をするうち、地元にも連絡会のようなものを作りたいと、意気投合したのが発端でした。その気持ちを大切に持ち帰り、最初に声をかけた2人の方と事務局となって、あちらこちらに声をかけ、6社10名と、和歌山県立医科大学衛生学教室の宮下先生を囲んで発足することになりました。

その後、会則を作り、会費を集め、事務局をまわり持つて、年に数回の会合を持つに至っています。

ある時は、実情報告で愚痴のこぼしあいであったり、ある時は、研究発表の場であったり、又外部講師の好意

による講話であったりと、細々と会を運営してきました。

一度会合を持つ度に、次にはあの会社のあの人もと、くちこみで広がり、徐々に会員も増えてきました。

今では、一番盛り上がる新年会や忘年会でがっちりと手を組み、14社21名が、個人的にも相談できる会組織を作ってきたと自負しています。

しかし、引継ぎを繰り返す中で、ややもすると当初の意欲が薄れがちになることや、景気の低迷で、活動を制約されることが多く、意気消沈気味なのが実情です。

それぞれが、日常業務だけで忙しい毎日の中で、この会をいかに維持するかは今後の大きな課題です。

ゆくゆくは、研究会のメンバー全員が、産業衛生学会員となり、学会活動の中に位置づけられることを願っています。



第40回近畿産業衛生学会演題募集のお知らせ

主催 日本産業衛生学会近畿地方会
学会長 宮下和久 (和歌山県立医科大学衛生学教室)

1. 開催日時と場所

日時：2000年11月18日(土) 9:30~17:00(予定)
会場：和歌山県立医科大学(和歌山市紀三井寺811-1 TEL073-447-2300 内線5801)
JR和歌山駅・南海和歌山市駅下車 和歌山バス(医大病院行き)で約30分

2. 演題募集要項

申込締切日：8月31日(木) 必着
申込要領

- ① 同封の演題申込用紙に演題名、発表者名、所属、連絡先、要旨を記入し、学会事務局宛申し込んで下さい。
- ② 申込み到着後、学会事務局から「専用原稿用紙」を送付します。
- ③ 抄録原稿の提出締切りは、9月30日(土)とします。
- ④ スライドとOHPが使用できます。
- ⑤ 1演題12分(口演7分、質疑5分)の予定です。

3. プログラム(予定)

午前：一般演題、幹事会および評議員会
午後：特別講演 「新しいパラダイムに向けての産業保健」 座長 和歌山県立医科大学教授 橋本 勉
岐阜大学名誉教授・岐阜産業保健推進センター所長 岩田弘敏
シンポジウム「21世紀の企業における健康管理のあり方をめぐって」 座長 宮下和久(和歌山医大)
北原照代(滋賀医大) 茂原 治(和歌山健康センター)
西内恭子(大阪ガス) 宮上浩史(松下産業衛生科学センター)

4. その他

- ・日本医師会産業医生涯研修単位認定を申請中
- ・日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)単位認定を申請中
- ・学会への参加申し込みは学会当日受付いたします。(事前に申し込みの必要はございません)
- ・学会参加費 日本産業衛生学会 学会員1,000円 非学会員2,000円
- ・プログラム終了後、学会場で懇親会(会費制)を予定しています。

5. 学会事務局(演題申込先及び問い合わせ先)

〒641-8509 和歌山市紀三井寺811-1 和歌山県立医科大学衛生学教室内
第40回近畿産業衛生学会事務局 TEL&FAX 073-441-0646
E-mail:miyaka@wakayama-med.ac.jp (事務局担当宮下の個人アドレス)

私たちはめざします。健康の創造を!

定期健康診断から成人病健診・人間ドックまでトータルヘルスケア



KKCネットワーク

- 法賀事業部 077-551-0500
- 彦根事務所 0749-22-8089
- 京都事務所 075-662-7692
- 大阪事業部 06-6304-1532
- 兵庫事業部 078-230-7530
- 三重事業部 059-225-7426
- 名古屋事務所 052-735-0821
- 東京事業部 03-3242-5290
- 事務局 077-525-3233
- 公益事業局 077-525-7744

<http://www.zai-kkc.or.jp/>

労働大臣許可 労働者健康保持増進サービス機関
財団法人 **近畿健康管理センター**

第3回じん肺勉強会・第41回じん肺研究会のお知らせ

日時：平成12年7月29日(土)
14:00~16:00 塵肺フィルム読影勉強会
16:00~17:00 懇親会
13:15~病院見学会(神戸労災病院新築の為希望者のみで併催、会議室集合)
会場：神戸労災病院新南館7階会議室
(JR山陽新幹線新神戸駅よりタクシーで5分)
近畿地方会じん肺研究会
世話人 坂谷 光則

お知らせ

第75回日本産業衛生学会

第75回日本産業衛生学会を近畿地方会で受け持つことが、先般の北九州で開催された本学会で決定されました。その企画運営委員長をお引き受けし、神戸で開催すべくさっそく準備にとりかかりつつあります。現在までに日程と場所のみ決まりました。

会期 2002年4月10日(水)～4月12日(金) (4月13日は特別研修会)

会場 神戸市ポートアイランド・神戸国際会議場

年々盛んになる本学会を、21世紀の幕開けにほぼ復興のなった神戸の地で開くことの意義もさることながら、いささか荷が重い気がします。地方会の会員のご協力をえて盛會に運べるよう意を傾けたいと思います。内容はこれから企画運営委員会と実行委員会を立ち上げ、各方面のご意見を伺いながら、また来年の高知での企画も眺めながら検討を進めますが、メインテーマをできるだけ早く決めたく、いいアイデアがありましたらお知らせください。本年中に改めてもろもろお伺いする予定であります。



まだ2年近く先の話ですが、多分春爛漫の候、ご参加・発表の準備もよろしくお願いたします。まずは最初のご挨拶といたします。

第75回日本産業衛生学会

企画運営委員長 住野 公昭

(神戸大学医学部公衆衛生学教室 教授)

産業衛生講座特別研修会

日時：平成12年9月9日(土) 13:30～16:30

場所：大阪市立大阪医学部学舎 4階大講義室

プログラム：

講演Ⅰ 産業保健を総括する 過去－現在－未来

堀口俊一 日本産業衛生学会近畿地方会長

講演Ⅱ 国際的産業保健

住野公昭 神戸大学教授 医学部公衆衛生学

講演Ⅲ 経験的産業医学から、事実に基づく産業医学へ

小泉昭夫 京都大学大学院教授 社会健康医学

受講料：3,000円(前納制) 募集人数：300人

日医認定産業医

基礎研修 後期/生涯研修 専門 3単位申請中

産業看護職継続教育 実力アップコース単位認定 申請中

申込方法：産業衛生講座特別研修会(9月9日開催分)受講希望と明記の上、①氏名②郵便番号③連絡先住所(自宅又は勤務先かを記入)④TEL⑤FAX⑥勤務先名⑦所属医師会⑧日本産業衛生学会学会員もしくは非学会員かを楷書で記載し、FAX又は葉書でお申し込み下さい(受付中)。電話での受付は致しません。なお、定員を超え参加して戴けない場合は当方より連絡致します。お電話による問い合わせには応じられませんので御了承願います。

申込先：丸紅大阪健康開発センター(担当：細岡)

〒541-8588 大阪市中央区本町2-5-7

FAX 06-6266-2181

生物学的モニタリング・バイオマーカー研究会

日時：平成12年10月6日(金) 13:00～17:00

会場：松下電器厚生年金基金 松心会館

京阪門真市駅5分

事務局：松下産業衛生科学センター

担当：道辻広美

大阪府門真市殿島町7-6

e-mail PAN13427@pas.mei.co.jp

FAX 06-6906-1702



- 情報発信
- セミナー・講演会
- 通信保健指導
- セルフケア支援ツール
- 健診データベース
- 健康診断

加盟 日本予防医学協会

<http://www.sunnet.or.jp>

- 本部 東京都江東区扇橋 1-21-25 TEL 03-3649-3651
- 東日本支部 東京都江東区扇橋 1-21-25 TEL 03-3649-6111
- 関西支部 大阪市北区西天満 5-2-18 TEL 06-6362-9041
- 西日本支部 福岡市博多区博多駅前 3-19-5 TEL 092-473-0547
- 名古屋出張所 名古屋市東区代官町 39-18 TEL 052-931-0526
- 茨城連絡事務所 茨城県鹿嶋市大字光 3 TEL 0299-82-7736

議 事 録

平成12年度第1回幹事会

- 日 時：平成12年 5月26日(金) 11:20~12:20
 場 所：大阪市立大学医学部学舎12階セミナー室2
 出席者：会 長 堀口
 理 事 藤木 徳永 圓藤 岡田
 幹 事 小泉 宮下 植本 平田 河野 上田
 埜田 住野 兼高
 監 事 原
 事務局 清田 (敬称略 順不同)
1. 堀口俊一近畿地方会会長挨拶
 2. 藤木幸雄日本産業衛生学会理事長挨拶
 3. 第40回近畿産業衛生学会 宮下和久学会会長挨拶
(和歌山県立医科大学教授)
 4. 物故会員の報告
 5. 議題
 - (1)平成11年度事業報告
 - (2)平成11年度決算報告(監査報告)
 - (3)平成12年度事業計画(案)
 - 1) 第48回近畿地方会総会
平成12年 5月26日(金) 大阪市立大学医学部学舎
 - 2) 第40回近畿産業衛生学会
平成12年11月18日(土) 和歌山県立医科大学
 - 3) 評議員会：2回開催予定
 - 4) 幹事会：4回開催予定
 - 5) 近畿地方会ニュース：4回発行予定
 - 6) 産業医・産業看護部会の実施について
 - 7) 産業衛生講座実施について
 - 8) 研究会活動
 - (4)平成12年度予算(案)
 - (5)第41回近畿産業衛生学会開催について
 - (6)第75回日本産業衛生学会の準備状況について
住野神戸大学教授(企画運営委員長)より報告があった
 - (7)産業衛生講座製本に関する件
徳永理事より、第1回より14回までの講師29名のレジメを集大成して正規の出版物としてまとめる方向で検討中であるとの説明があった
 - (8)地方会50周年記念事業について
 - (9)日本産業衛生学会定款改正案および地方会会則改正案について
圓藤理事より資料にそって説明がされ、来年総会で決議したいので、1年かけて検討したい旨の希望が述べられた。
 - (10)その他
 - 1) 大原幹事(松下産業衛生科学センター)から転勤のため幹事辞任の申し出についての幹事会報告が承認された。
 - 2) 第75回日本産業衛生学会企画運営委員長の住野神戸大学教授を新幹事としたい旨の幹事会報告が承認された。
 - 3) 堀口会長より、ICOHの2008年の国際会議開催地に日本を含めて、東アジアで開けるよう日本のメンバーは検討しているとの報告があった。

ケースカンファレンス・ケーススタディ
研修会開催のお知らせ

長年、懸案になっておりました首題研修会が開催される運びとなりました。大阪府医師会産業医部会、労働福祉事業団大阪産業保健推進センター、日本産業衛生学会近畿地方会産業医部会の三者に加え、行政からの賛同も得て相互に協力し合っ、運営致しますが、この試みは全国で初めてのケースとなります。

本研修会は専属、嘱託産業医を対象とし、産業保健に関する具体的事例をテーマに受講者全員が討議に参加するラウンドテーブル方式をとり、討議の内容を発表し合っ、より理解を深めてゆこうとする研修方法を考えております。各会からのアドバイザーも出席し、お手伝いしますので会員各位のご参加をお待ち致しております。

アドバイザー

大阪府医師会産業医部会：酒井英雄、榎屋義雄

大阪労働局：難波正道

大阪産業保健推進センター：圓藤吟史、広部一彦、
岡田邦夫、一色孝徳

日本産業衛生学会近畿地方会産業医部会

山田誠二、岡田章

開催日：(いずれも14:00~16:00)

平成12年 8月23日(水)・12月13日(水) 他計4回

会 場：大阪産業保健推進センター会議室 他

問い合わせ先：大阪産業保健推進センター

〒541-0053 大阪市中央区本町2-1-6

堺筋本町センタービル9階

T E L 06-6263-5234

F A X 06-6263-5039

編 集 後 記

本学会の北九州の総会で、「定款」の改定案が提案されましたが、役員の選出方法や学会運営が変わる事になります。これを受けて、第48回地方会総会においても地方会会則の改正案が示され、来年の総会迄に会員の意見を集約し、検討する事になりました。地方会の特殊性を生かし、会員にとって最良となる内容にするためにも、会則の改正に向けて、一人一人が真剣に取り組む事が重要です。皆様方の忌憚のないご意見をお寄せ下さい。

いよいよ夏本番、いろいろな感染症が突発する昨今、健康支援への手綱は、しなやかさとしたたかさのバランス感覚で引き締め、私達自身も自己管理に配慮しなければと思います。(植本)

編集委員

上田美代子、植本寿満枝、岡田章(編集担当理事)、

兼高明生、清田郁子、埜田和史(編集担当幹事)、

日高秀樹、宮上浩史(五十音順)

次 回 発 行 日 2000年10月15日

次回原稿締切日 2000年 8月31日